

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 計画

学校名		基山町立基山小学校		
1 前年度 評価結果の概要	・基山町小中3校で「小中一貫教育」を推進するために三部会を設置し、研究や実践をしてきた。学校教育目標「学び確かに 心豊かに 体たくましく」の達成のために、「宿題をしてくれる」や「進んであいさつをする」、「歩いて登下校する」等の達成行動目標を掲げ、小中連携で取り組む合言葉の「す・み・そ・あ・じ」など、具体的で実践しやすい手立てが提案され、組織的な取組ができた。また、学力向上に向けて「スキルタイム」や「すくすくテスト」、「基山小漢字検定」を実施し、基礎学力の定着に取り組んだ。今後も「継続と徹底」を意識して学力向上を実現したい。その他の課題に対しては、「報告・連絡・相談」を基本に担当者や学年主任を中心としながら、管理職とともに課題解決にあたることができた。 ・学年主任や各主任を核とした組織的な指導体制をさらに強化し、ミドルリーダーの育成と若手支援を継続して行い、実践的な研究を深めていく。			
2 学校教育目標	「きたえ やりぬき まなびあう」 ～自ら学び考え行動できる やさしさ・やる気いっぱい まなびあう基山っ子～			
3 本年度の重点目標	・本年度、三部会から9つの専門部に組織改編し校内組織も関連付けることで、これまでの取組の精査を図るとともに、各専門部の機能強化と専門性を高めていく。 ・特別な支援を必要とする児童に対する支援体制や支援の在り方について見直しながら、指導者及び特別支援学級補助員を含む全職員が児童理解に努め、スキルアップしていく。			
4 重点取組内容・成果指標				
(1)共通評価項目				
	重点取組		具体的取組	
	評価項目	取組内容		成果指標 (数値目標)
	●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・学習状況調査の結果等から、児童に身に付けさせるべき力を分析し、その力の育成を図るために、全職員で「授業づくりのステップ1・2・3」を参考にして指導改善を行う。 ・家庭学習の充実を、校内研究や校内研修を通して推進する。
		○読書の習慣化と多読の推奨	○学校図書館の年間貸し出し冊数を、一人平均100冊以上にする。	・ファミリー読書(親子読書運動)を推進・啓発し、読書の習慣化に取り組む。 ・図書館祭りを実施したり、多読賞を設けたりして、図書館利用について児童の関心を高める。 ・図書の貸し出しを常に2冊までできるようにし、多読を推奨する。
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●互いのよさを認め、共に高め合う道徳の授業実践や学級経営を通して、児童の自己肯定感を高める。	・全ての学級が、授業参観等を活用して、「ふれあい道徳」を実施する。 ・一人一人がよさを発揮し、互いのよさを認め合える授業や学級経営を行う。 ・ST等による道徳授業に関する研修会や出前授業等を行うことで、魅力のある道徳の授業作りに取り組む。
		●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめの未然防止のためのアンケート等を実施するとともに教育相談活動を充実させる(組織対応ができていると回答した教員80%以上)。 ・SC、SSWの活用を推進する。	・Hp-QUの活用と、いじめに関するアンケートを年間2回実施することで、児童の実態を把握し、結果の分析を基に、学年、学級経営に生かす。 ・SC、SSWの活用、保護者、地域、専門機関との連携強化を図り、生徒指導や教育相談体制の整備を行う。
		◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎社会科や総合的な学習の時間等、郷土を愛する児童の育成を目指した、カリキュラム・マネジメントを行う(「将来の夢や目標をもっている」)について肯定的な回答をした児童80%以上)。	・「ふるさと基山の歴史」や「佐賀語り」「佐賀巡り」等を活用した授業に取り組む。 ・地域の教育資源や人材等を活用した体験活動や表現活動を実施する。 ・小中の系統性をもたせた「きやま学」を実践する。
	●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	・保護者と連携協力して児童の外遊びを奨励し、体力の向上を図る。	・外遊びの奨励や「さがんキッズ」の取組への奨励をしていく。
		○食育教育の充実	○年間の給食残菜率を5%以下にする。	・栄養教諭と食育教育担当職員が中心となり、学級担任との連携した食育指導を展開する。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●会議や事務の効率化を図り、教職員が児童と向き合ったり、教材研究をしたりする時間を確保する。	・会議や連絡会は、資料をデータ化し、事前に確認できるようにしておき、会議や連絡会の時間の削減を行う。 ・共有フォルダにデータを保存し、共有化を図り、効率的に業務を遂行する。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				
	重点取組		具体的取組	
	評価項目	重点取組内容		成果指標 (数値目標)
	○特別支援教育	○特別支援教育の充実	○職員の共通理解と協力体制の確立を図る。 ○支援が必要な児童の実態を把握し、個別的教育支援計画、個別の指導計画を作成し、随時更新して、指導に生かす。	・教職員を対象とした特別支援教育に係る研修会や保護者を対象としたふれあい学級や学びの教室の運営に係る説明会を実施する。 ・関係機関との連携を図り、保護者・児童の教育的ニーズや願いを把握し、教育的な観点から適切に対応する。 ・ユニバーサルデザインの推進に向けて、「学習環境」「授業」「人的環境」等のユニバーサルデザインについて、講師招聘等を行い共通理解を図る。
○基本的な生活習慣の定着	○あいさつ、返事、廊下歩行、スリッパ並べの定着	○「す・み・そ・あ・じ」を合言葉にして、あいさつ、返事、正しい廊下歩行、はきものをそろえる、ができる児童を80%以上にする。	・月毎の「生活目標」を「す・み・そ・あ・じ」に焦点化し、毎学期繰り返して取り組むことで指導の徹底を図る。 ・「基山っ子」(学校だより)や全校集会等で児童の頑張りを肯定的に評価し、あいさつ、時間の意識、はきものそろえを定着させる。	
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育				
5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・			